

セーフティプロモーション スクール 認証申請書
Safety Promotion School Designation application



小野市立小野特別支援学校

Ono Special needs School

日本 Safety Promotion School 協議会

令和5年 3月

目 次

学校概要

セーフティプロモーションスクールの7つの指標

指標1

指標2

指標3

指標4

指標5

指標6

指標7

【資料】

【資料】、【写真資料】については個人情報保護等の
点でHP上は省略

【写真資料】

安全教育

安全管理

安全連携

学校概要

- 学校名:小野市立小野特別支援学校
- 校 種:特別支援学校(知的障害) 小学部・中学部
- 所在地:兵庫県小野市昭和町458番地の1
- 郵便番号:675-1359
- 電話番号:0794-66-2751
- FAX 番号:0794-66-2570
- メールアドレス:onotokubetusien-info@ono.ed.jp
- ホームページ:onotokubetusien.ono.schoolweb.jp/
- 学校長:岩佐直彦

【校章の由来】



円の内部は、養護学校の「よ」の字を図案化し、子どもが大きく手を広げて元気に頑張っている様子を表わし、外円は、学校の児童生徒が手をつなぎ助け合っていることを表わしている。

【在籍児童・生徒と教職員数】

児童数:37名

(小学部27名、中学部10名)

教職員数:40名

(校長1名、教頭1名、教諭25名、栄養教諭1名、養護教諭1名、

事務職員2名、介助員3名、校務員、看護師4名)

【本校教育の概要】

1. 本校の学校教育目標

「明るくいきいきと生き抜く子」

～社会の一員として自立できる人間の育成～

2. 努力目標

児童・生徒一人ひとりの障害の特性を的確に把握し、個に応じた指導内容と支援体制を充実することにより、児童生徒の可能性を開発・伸長させ、生きる喜びを得させる教育実践を推進する。

(1) 生活指導の徹底

日常生活に必要な能力を高める個別の指導計画を具体的に作成し、身辺自立やコミュニケーション能力を伸長させる。

(2) 教育内容の充実

教科学習や領域・教科を合わせた生活単元学習、作業学習、自立活動との系統化を図り、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育を推進する。

(3) 学習評価の充実

一人ひとりの障害の状況や発達段階を踏まえ、小中を通した系統的で一貫性のある「個別の指導計画・支援計画」を作成する。

児童・生徒のよさや成長の状況を「個人記録」などで積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を検証し、指導の改善を積極的に行う。

(4) 交流教育の推進

地域の児童・生徒とともに生活や学習する機会を多く持ち、共通体験を通して互いに理解し、つながり合い、好ましい人間関係の構築に努める。

また、障害のある児童生徒の自立と社会参加を促進するため、交流にあたっては、個別の指導計画に位置づける等個々のねらいを明確にすると共に、計画的に、かつ相手校と連携し実施方法等を工夫する。

(5) 特別支援学校のセンター的機能の充実と学校や関係機関との連携を図る

地域内の学校園や、他の特別支援学校間のネットワークを活用し、多様な相談への対応や適切な支援等を行うなど、特別支援教育のセンター的機能の充実に努める。

地域住民や保護者の特別支援教育に関する理解が深まるよう、関係機関と連携して、積極的な情報提供に努める。

(6) 専門職としての資質の向上

一人ひとりの児童・生徒に応じた確かな教育を推進し、具現化するための実践的な力量を高め、資質の向上を図り、子どもの心に寄り添える感性を磨く。

また、合理的配慮の義務化を踏まえ、インクルーシブ教育システム構築に向けた新たな課題に対応できる指導力の向上に努める。

(7) 安心安全の学校づくり

安全管理・安全教育に徹する危機管理組織を構築し、協働して児童生徒の安全確保のために環境づくりに努める。

3. 本校の沿革

年 度	内 容
1975	小野市立小野小学校敷地内(小野市西本町 477)に小野市立小野養護学校小学部を設置する
1976	中学部を設置する 国立青野ヶ原療養所内に国立青野ヶ原療養所重度心身障害児施設内学級(青野ヶ原学級)を開設する
1977	青野ヶ原学級に中学部を開設する
1979	養護学校教育の義務化に伴い青野ヶ原学級を廃止する
1984	新校舎(管理棟、普通教室、特別教室等)完成、 現校舎に移転(小野市昭和町 458-1)、プール完成、小野養護学校完成式
1991	運動場完成
1992	体育倉庫完成
1995	創立 20 周年記念式典
2002	給食室完成
2004	学校警備員配置、肢体不自由児用トイレ完成
2005	廊下床張替
2006	プール温水シャワー完成
2007	学校名を小野市立小野特別支援学校と改める
2008	北校舎教室にエアコン設置
2009	南校舎教室にエアコン設置
2010	防犯カメラ設置、体育館竣工式
2011	全教室にエアコン設置
2014	医療的ケア対応のための看護師配置
2016	スクールバス1台増車、介助員1人増員、給食二次調理室設置
2019	トライアングルプロジェクトフォーラム in おの開催
2020	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため空調設備等設置 小学部・中学部トイレ洋式化改修工事、スクールバスに AED 設置 防災備蓄倉庫設置、避難所に指定 トライアングルプロジェクトフォーラムⅡ in おの開催
2021	保健室改装工事 医療的ケアルーム完成 学校安全推進実践報告会の開催
2022	セーフティープロモーションスクール認証支援申請 スクールバス 1 台増車、自立活動室床張替

航空写真(GoogleEarth から)





セーフティプロモーションスクールの7つの指標

指標1:学校内に「学校安全コーディネーター」等を中心とする学校安全推進のための「学校安全委員会」が設置されている。

指標2:学校において、「生活安全」・「災害安全」・「交通安全」の分野ごとに、セーフティプロモーションの考え方に基づいた「中期目標・中期計画(3年間程度)」が設定されている

指標3:学校安全委員会において、「中期目標・中期計画」に基づいた学校独自の学校安全推進のための「年間計画」が、「安全教育」・「安全管理」・「安全連携」の領域ごとに具体的に策定されている。

指標4:「年間計画」に基づいて、学校安全委員会を中心に、学校関係者が参加して、学校安全推進のための活動が年間を通じて継続的に実践されている

指標5:学校安全委員会において、実践された学校安全推進に関わる活動の成果が定期的に報告され、それぞれ分析に基づく明確な根拠をもとに学校安全推進活動に対する評価が行われている。

指標6:学校安全委員会における次年度の「年間計画」の策定にあたって、それまでの活動成果の分析と評価を参考に、当該校における学校安全に関わる実践課題の明確化と「年間計画」の改善が取り組まれている。

指標7:学校安全推進に関わる活動の成果が、当該の学校関係者や地域関係者に広報・共有されるとともに、「協働」の理念に基づいて、国内外の学校への積極的な活動成果の発信・共有と新たな情報の収集が継続的に実践されている。

指標1：学校安全委員会

区分	役職
教職員代表	校長、教頭、学校安全コーディネーター、推進委員（養護教諭を含む3名）
児童・生徒代表	児童・生徒会 本部役員
PTA 代表	PTA 会長、PTA 役員
市民安全部	市民安全部（防災グループ・地域安全グループ）
警察関係者	小野警察署
消防関係者	小野市消防本部
地域代表	学校評議員、放課後等デイサービス事業所代表者

指標2:セーフティプロモーションスクール活動【中期目標・中期計画】

分野	中期目標・中期計画
<p>生活安全</p> <p>・外傷予防</p> <p>・犯罪予防</p> <p>(重点領域)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活における安全教育を推進し、児童・生徒自らが危険を予測して、怪我や事故を回避できる力を育成する。 ・医療機関や消防と連携し、児童生徒のアナフィラキシー、誤嚥等の緊急時の訓練やそれに対応できる体制づくりを行う。 ・定期的なヒヤリハット事例の収集や児童生徒と教職員が複数人で行う安全点検で、校内の危険個所の把握と校内環境の改善に努める。 ・不審者侵入や児童生徒の行方不明等に迅速に対応できるよう、訓練や研修の充実を図り、より良い体制づくりを行うと共に、予防のための警備設備、環境整備を充実させる。
<p>災害安全</p> <p>・地震対策</p> <p>・風水害対策</p> <p>・火災予防</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生後の保護者との連絡方法や引き渡し方法を場面に応じて確立する。 ・教職員、児童生徒、保護者が合同で地震や火災時の避難訓練を行う。 ・避難所開設に向けて、迅速な初期対応ができるよう継続した避難所開設訓練を行う。また、訓練から見えてくる必要な備品を防災倉庫に充実させる。 ・スクールバス乗車時に起きた自然災害に対応するマニュアルを作成し、バス担当、運転手、介助員、保護者、放課後デイサービス事業所代表者等とバス利用のマニュアルの共有、確認を行う。
<p>交通安全</p> <p>・被害予防</p> <p>・加害予防</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室を実施し、交通ルールや自転車の正しい乗り方を知る。 ・スクールバス内でのシートベルト着用や過ごし方を知り実行する。 ・スクールバス乗車・降車後に複数人で、完了のチェックを行う。 ・年度末や年度初めに、バス担当、運転手、介助員、保護者、放課後デイサービス事業所代表者等とバス利用時のマニュアルの確認を行い、乗車中や乗車前後の事故を防ぐ。 ・年間5回の、バス停指導を毎年継続して実施する。

指標3:セーフティプロモーションスクール活動の年間計画(令和4年)

分野	領域	年間計画
生活安全 ・外傷予防 ・犯罪予防 (重点領域)	安全教育	○児童生徒と教職員が不審者対応訓練を実施し、緊急事態に備える意識を高める。 ○児童生徒や教職員が主体的に怪我や事故予防に取り組む態度を育成する。 ○児童生徒と教職員が危険個所や行方不明になりそうな場所を把握する。
	安全管理	○警備防災計画に基づき、月1回安全点検を行い危険個所の減少に努める。 ○アナフィラキシーや誤嚥等緊急時対応の訓練を実施し、エピペンの使い方や救急搬送の体制を教職員で共有する。 ○AEDの設置場所の確認や中身の確認を定期的に行う。 ○行方不明捜索訓練を実施し、学校周辺の地理の確認や捜索児童生徒の行動が予測しやすいよう捜索カードを作成する。 ○ヒヤリハット事例から日常生活での危険な場面や場所を把握し、児童生徒への支援や安全教育に活かす。
	安全連携	○心肺蘇生、救急救命等の研修を実施し、救命スキルを高めていく。 ○学校安全委員会や訓練、研修時に関係機関から学校の取組みに評価を受ける。 ○行方不明発生時、捜索依頼しやすいよう、訓練や日頃の関わりで、地域の施設や市民安全部と連携を深めておく。 ○不審者侵入に迅速に対応できるよう、警察や市民安全部と連携し、不審者対応マニュアルの制定や不審者対応訓練、さすまたの使い方の研修を受講する。 ○緊急時、迅速な救急搬送ができるよう、訓練を通して医療機関や消防署と連携を深める。
災害安全 ・地震対策 ・風水害対策 ・火災予防	安全教育	○災害時での行動について訓練前の事前学習で知る。 ○地震・火災の避難訓練を定期的実施し、児童生徒の災害対応スキルを高める。 ○親子で訓練を実施し、災害時の行動について親子で共有、確認する。
	安全管理	○避難所開設訓練を実施し、初期対応における教職員の役割確認を行う。 ○防災倉庫の備品の確認を行い、必要物資と必要数を確認、確保する。 ○災害時における保護者への連絡体制を確実なものにする。
	安全連携	○学校安全委員会や訓練時に関係機関から学校の取組みに評価を受ける。 ○様々な場面で自然災害が起きたことを想定して、引き渡し訓練を実施し、教職員、保護者共に安全への意識を共有し高めていく。
交通安全 ・被害予防 ・加害予防	安全教育	○学校周辺の歩行訓練や遠足等で交通ルールの学習を行う。 ○学校内で自転車の乗り方を正しく学ぶ。(ヘルメット着用、左側通行等) ○スクールバス内でのシートベルト着用や過ごし方を学び、事故の際、被害が拡大しないようにする。
	安全管理	○スクールバス利用時事故対応マニュアルを制定する。 ○バスに取り残される児童生徒がいないか複数人チェック体制をつくる。 ○安全に走行するため、バスや自転車の定期点検を行う。
	安全連携	○年度初めに、バス担当を中心とした教職員、運転手、介助員、保護者、放課後デイサービス事業所代表者等とバス利用時のマニュアルの確認を行い、乗車中や乗車前後の事故を防ぐ。 ○交通安全協会と連携し、正しい集団歩行や自転車の乗り方を学ぶ機会を設ける。

指標4:セーフティプロモーションスクール活動の実践(令和4年)

分野	領域	活動・実践の内容
生活安全 ・外傷予防 ・犯罪予防 (重点領域)	安全教育	<p>○不審者の敷地内侵入の対応で、教室にバリケードを作り身を潜める訓練を行った。</p> <p>○廊下での衝突が多かった事例を共有し、中学部や小学部高学年を中心に、「廊下は歩きましょう。」「走る遊びは運動場や体育館でしましょう。」と声をかけあった。</p> <p>○各学級で、正しい遊具の使い方や、休み時間の安全な遊び方を確認し、危ないことをしている子には、児童生徒自ら、注意を促したり、教職員に報告したりした。</p>
	安全管理	<p>○学校敷地内の安全点検を月1回実施した。同じ人が同じ場所を続けて見るのではなく、3人程度でグループを組み、ローテーションし違う視点で点検を実施した。</p> <p>○今年度は、誤嚥による窒息の危険がある生徒を想定した救急搬送の訓練を行い、緊急時の対応について自分の役割を確認した。</p> <p>○ヒヤリハット事例を定期的にまとめ、教職員で共通理解し、日ごろの支援や、安全教育の教材として活用した。</p>
	安全連携	<p>○親子で心肺蘇生講習会を開催。</p> <p>○不審者対応訓練やさすまた研修、児童生徒捜索訓練に警察や市民安全部と連携して実施し助言してもらった。</p> <p>○緊急時対応訓練(誤嚥)では、消防や学校医、医療機関と連携して実施し、一緒に訓練に参加を依頼し、実際の動きの確認や助言を得た。</p>
災害安全 ・地震対策 ・風水害対策 ・火災予防	安全教育	<p>○学校内で地震・火災が起きた場合の初期避難の方法を、訓練の事前学習を通して学習の機会を設けた。</p> <p>○親子で防災や引き渡し訓練等を実施することで、災害時の集合場所や家庭での対応の仕方を話し合ってもらった機会とした。</p> <p>○緊急時に、教職員の指示に対応できるよう、大事な場面で教職員の話を聞く合図や習慣づくりに取り組んだ。</p>
	安全管理	<p>○2号動員(出勤要請2番目のグループ)から順に教職員が到着する想定で、避難所開設訓練を行った。何から順に始めたらいいかそれぞれの班で判断する形で実施した。</p> <p>○火災予防や児童生徒の安全確保のため、消火設備点検、修理を行った。</p> <p>○防災倉庫に、必要なものを確認し、備品の移動や補充を行った。</p> <p>○スクールバスや学校など様々な場所での引き渡しを想定した訓練により、災害時における保護者の連絡体制、引き渡しのルールの確認を行った。</p>
	安全連携	<p>○防災における訓練で、警察や消防、市民安全部等に訓練後の総括、助言をしてもらった。振り返りの中で、気になったことも質問し、次につながる良い機会となった。</p> <p>○様々な場所で、自然災害が起きることを保護者に意識してもらうために、学校とスクールバスでの引き渡し訓練を実施した。</p>
交通安全 ・被害予防 ・加害予防	安全教育	<p>○各学部で、交通ルールを学ぶために、歩行訓練を実施した。</p> <p>○学校で、自転車に乗るときはヘルメットの着用と一方通行で乗ることを周知した。</p>
	安全管理	<p>○スクールバス利用時、事故対応マニュアルを制定した。</p> <p>○安全に走行するため、バスや自転車の点検を定期的に行った。</p> <p>○校内事故防止のため、スクールバス停車場や保護者の送迎場所の指定や、登下校時に教師の立ち番を配置した。</p>
	安全連携	<p>○年度初めに、事故防止のため、バス担当を中心とし教職員、運転手、介助員、保護者、放課後デイサービス事業所代表者等とバス利用時のルールの確認を行った。</p>

指標5:セーフティプロモーションスクール活動の評価(令和4年)

分野	領域	評価
生活安全 ・外傷予防 ・犯罪予防 (重点領域)	安全教育	<p>○不審者訓練では、速やかに教師や児童生徒が緊張感をもって役割通りに動き、落ち着いて対応することができた。初めてのバリエードも不審者確保の放送がかかるまで静かに待てる教室が多かった。</p> <p>○廊下で走ることに児童生徒が互いに声をかけ合い、衝突事故が減少した。</p> <p>○遊具の正しい使い方の理解が広まって、教職員だけでなく児童生徒同士でも、声をかけ合うことができた。</p>
	安全管理	<p>○毎月実施している安全点検を複数でローテーションすることで、違う視点で違和感に気づいたり、先月の状態を確認したりと担当で連携しながら実施することができた。</p> <p>○毎年、違う事例で緊急対応訓練を行うことで、初期対応で大切なことや自分の役割を確認することができた。</p> <p>○ヒヤリハット事例を集めることで、その対応策を考えると共に、日常での危険な場面に教職員、児童生徒共に早く気づくようになってきている。</p>
	安全連携	<p>○親子での心肺蘇生訓練では、消防署の方と連携し最新の初期対応について、共に学ぶことができた。</p> <p>○不審者対応訓練や児童生徒捜索訓練で、警察や市民安全部との継続した連携により本校独自の課題やより確実にスムーズな対応について協議することができた。</p> <p>○近隣で起きた誤嚥事故の、緊急時対応訓練を早期に行うことで、保護者に安心感をもってもらうと共に、日頃に活きる医療や学校医との継続した連携ができた。</p>
災害安全 ・地震対策 ・風水害対策 ・火災予防	安全教育	<p>○災害における事前学習や、実際の煙や瓦礫での移動において、体験を通して正しい知識を得ることができた。</p> <p>○緊急時に教職員の指示や合図に注目できるよう、朝会や集会での継続した指導で、前で話す人を見るようになってきた。</p> <p>○親子で訓練することで、災害時に子どもがどんなことに困るかが分かり、家族で話し合うきっかけとなった。</p>
	安全管理	<p>○避難所開設訓練では、初期対応での自分の役割を確認することができた。</p> <p>○定期的な消火設備点検や修理、周辺整理を行い安全確保に努めることができた。</p> <p>○防災倉庫の定期的な中身の確認を実施し備品の移動や補充ができた。</p> <p>○継続したスクールバスでの引き渡し訓練で、災害時における保護者への連絡体制や引き渡しのルールを確認することができた。</p>
	安全連携	<p>○防災訓練の後、警察や消防、市民安全部等から本校の実態に合った総括や助言を頂き、今後継続していく内容や次回チャレンジしたい最新の情報を知ることができた。</p> <p>○いつ、どこで災害になっても、安全な引き渡しができるよう、保護者にルールの再確認を行うことができた。</p>
交通安全 ・被害予防 ・加害予防	安全教育	<p>○歩行訓練では、教職員と一緒に、交通ルールを学び安全に歩くことができた。</p> <p>○学校で、自転車に乗るときはヘルメット着用を徹底することができた。</p>
	安全管理	<p>○スクールバス利用時、事故対応マニュアルを引き渡し訓練で活用することができた。</p> <p>○バスや自転車の定期的な点検を担当が中心に依頼・実施し、安全に走行できた。</p> <p>○校内で、スクールバス停車場や保護者の送迎場所・時間の指定、登下校時の教師の立ち番の配置により校内事故防止に繋がった。</p>
	安全連携	<p>○バス利用のルールや運行状況について、訓練や連携会議等で、教職員や運転手、保護者、放課後等デイサービス事業所職員に繰り返しの確認が事故防止に繋がった。</p>

指標6:セーフティプロモーションスクール活動の改善(令和4年)

分野	領域	課題への対応と改善
生活安全 ・外傷予防 ・犯罪予防 (重点領域)	安全教育	<p>○不審者が校舎内に入ってしまった場合の教職員や児童生徒の対応も必要であり、事前学習を工夫し、不審者役が実際に入る想定で次年度の訓練の実施を行う。</p> <p>○子ども安全サポーターを任命し、校舎内での安全に児童生徒が意識できるよう、安全点検を一緒に行ったり、学校での安全な過ごし方を啓発したりする。</p> <p>○性教育やネチケツ教育を実施した成果はあるが、時期や内容、系統性等の整理を行い、より効果的な実践につなげる。</p>
	安全管理	<p>○複数担当でローテーションする安全点検については、一定の効果があつたので継続するが、慣れて作業的になってしまわないよう点検場所の変更等、工夫をする。</p> <p>○今年度は、2回のヒヤリハット事例の検討だったので、短いスパンでの定期的な実施を検討する。</p> <p>○過去2年とは違う設定で、緊急時対応訓練を継続して実施し、緊急時に必要な本校ならではの役割の確認や体制づくりに向けて理解を深める。</p> <p>○子どもの動きが見えやすいよう見通しの良い環境づくりを継続的に行う。</p>
	安全連携	<p>○不審者対応訓練において、校舎に侵入してしまった場合を想定し、警察や市民安全部と連携し、最善の対応や事前学習の内容を共に協議していく。</p> <p>○児童生徒捜索訓練で、地域役員や近隣の施設と連携を取りやすい体制づくりを計画的に行う。</p>
災害安全 ・地震対策 ・風水雪害対策 ・火災予防	安全教育	<p>○児童生徒の実態に応じて、訓練の事前学習だけでなく、学校外で災害に遭遇した場合等を想定して、ロールプレイや体験を交えた学習を実施する。</p> <p>○災害時の指示の出し方で児童生徒の実態に合った、効果的な方法を考え整理し、学級だけでなく学部や学校で共有をしていく。</p>
	安全管理	<p>○避難所開設訓練では、年度によって異なる役割を経験することで全体を見通すことができる人を計画的に増やしていく。</p> <p>○安全点検に、親子大掃除等の機会を通して保護者が参加する機会を設ける。</p> <p>○毎年、バスの増減やルート変更、アフター利用の変更等が行われるので、ルールの確認を年度初めや訓練時、年度の終わりと2回以上の確認を行う。</p>
	安全連携	<p>○防災倉庫の中身について、消防や市役所等と訓練毎に確認を行う。</p> <p>○学業時間以外で災害に遭遇した場合、児童生徒の避難状況を把握できるよう保護者以外にも市内の小中学校をはじめとした地域の防災拠点となっている施設と連携できるよう、体制づくりを計画的に行う。</p>
交通安全 ・被害予防 ・加害予防	安全教育	<p>○実際の歩行訓練に加えて、交通安全教室を実施し、市民安全部や警察の方と一緒に、実態に応じた必要な内容を学習する。</p> <p>○乗り物に応じて、ヘルメットやシートベルト等、身を守ってくれるものについて指導場面を設定し、日常的に学習する。</p>
	安全管理	<p>○スクールバスにおけるヒヤリハット事例や想定できる危険な事例を挙げ、利用のルールやマニュアル、訓練内容に組み込んでいく。</p>
	安全連携	<p>○バス利用のルールを、前年度の反省から修正したものを学校安全委員会のメンバーに確認の上、次年度初めに提示する仕組みを確立していく。</p> <p>○計画的に、バス運行がスムーズに行えているか、バス停指導を行う日を設ける。</p>

指標7:セーフティプロモーションスクール活動の共有(令和4年)

分野	領域	成果の共有と協働
生活安全 ・外傷予防 ・犯罪予防 (重点領域)	安全教育	<p>○子ども同士の声掛けが安全の意識を高めるのに有効であり、子ども安全サポーターとして自主的な取り組みに繋がられることを研修や危機管理推進委員会で共有した。</p> <p>○性教育やネチケツ教育において成果と次年度の課題や役割分担等を職員会議で共有した。</p> <p>○生活安全について、SPS 認証校の学校安全コーディネーターから研修を受け、特別支援学校でできる安全教育について職員で共有した。</p> <p>○市内小中学校に向けて、学校安全についての実践報告会を2月末に実施した。</p>
	安全管理	<p>○安全点検のローテーションやヒヤリハット事例への対応等、実践の成果を市内の学校安全の実践報告会や学校評議員会で共有した。</p>
	安全連携	<p>○不審者対応、児童生徒搜索訓練において、警察や市民安全部と訓練のあと講評に加えて、質疑等で協議を行い成果や課題の共有を行った。</p> <p>○緊急時対応訓練では、事後に消防や医療機関、学校医との連携した成果を学校評議員会や学校保健委員会等で共有した。</p> <p>○保健だより等で生活安全に係る情報提供を行った。</p> <p>○市内小中学校に向けて、学校安全の研修会を2回(8月と2月)実施した。</p>
災害安全 ・地震対策 ・風水害対策 ・火災予防	安全教育	<p>○オープンスクールで保護者と親子防災訓練を実施し、安全への意識を共有した。</p> <p>○市内小中学校に向けて、訓練や研修等、学校安全についての実践報告会を実施した。</p>
	安全管理	<p>○今年度の、学校安全に取り組みについて、危機管理推進チームごとに、職員会議や学校評議員会で共有した。</p>
	安全連携	<p>○火災や地震での親子防災訓練においての成果を警察や市民安全部、消防と成果を共有し、危機管理推進委員会や職員会議で確認した。</p> <p>○市内小中学校に向けて、学校安全の研修会を2回(8月と2月)実施した。</p>
交通安全 ・被害予防 ・加害予防	安全教育	<p>○歩行訓練や自転車の乗り方についての成果を危機管理推進委員会で共有した。</p> <p>○市内小中学校に向けて、学校安全についての実践報告会を実施した。</p>
	安全管理	<p>○職員会議や危機管理推進委員会等で情報収集と情報共有を行った。</p>
	安全連携	<p>○学校安全委員会のメンバーと情報共有を行った。</p> <p>○市内小中学校に向けて、学校安全の研修会を2回(8月と2月)実施した。</p> <p>○年度末に、スクールバス検討会を実施し、教職員や保護者、運転手、教育委員会で、運行の実態、成果と課題を振り返り、来年度の運行計画を確認・共有した。</p>

